斷絃集

全

中村俊定文庫
文庫 18
298

京都帝国大学図書

中村俊定文庫

俊定蔵

京都大学蔵

備中國今市の宿に芭蕉庵
[illegible]
西行法師の[illegible]
[illegible]
乃ち[illegible]
[illegible]
かゝる[illegible]の書を情に信ず
探る初節の好士[illegible]

君ふしよ手あそびに墨をそめ枯尾
なしこの里にさか秋の花のさかりを
肌はかなしむとも見へしをまちしれの
ちゝし出ぬく箕あ月首に鳥啼なりぬ
嗚呼荊棘をくゐうりやすく
蕙蘭は霜月にしかしらしや疏徒く
世にちらぬ人も行月に去年の色を貸
ら浪魚は雑節の基也ぞ文字に

かゝりし旧郷の雅を追福たる
一集をえらひ立てまつるりなしうは川乃まく
郷しをとも既しかは世の常に知己の
あまりしたも見も鑑ふかく恋情を
遊るたよりあるもし花竟をおもひぬ

栢古堂謹

圭芳

奥州竹河渋川の
あとしけりあらく古碑乃
ふるきかは昔語文を
秋もしれく
以貫

ゆく水や蜻蛉蜻蛉
彦左か通ふる

芦蕉舎雲谷 秋河風らへ
たのまれて庵を申のいのちよりと
玉の緒も継る枚まで芭蕉
古碑とも見むらく彼語まよ
おもむく今ありしのね一章紙
翁が影下の霊も悦び給へと
高月山人
千文

葛の葉も拾ふみ葉紙恨むかな
消ておもふく宮の三ヶ月
田就
かけ物の京より参の待よくて
常周
一枚きれ秋る空綴
芦川

味ま　ちとせ　ちかの　春の　花の　末

二度の　御会　に　諸人　行き

余所に　流れ　ちと　ちまり　に　川の　書

鳥　よめの　字　つ　て　麦　荷

紅　文　紅　紅　咲　し　ら　に　年代　祝

御　年　屋　し　松　文

あ　毎　く　春　行　く　松　ら　む　の　屋

の　の　桑　本　の　桑　と　様　の　ら　乳

彼　岸　ら　し　の　花　な　人　の　ら　紅　梅

春　あ　の　ら　ま　な　ら　な　て　荷　よ　梅

時　あ　ま　も　止　む　し　自　中　ま　ら　の　重

三　の　ら　れ　く　山　原　石　の　屋

ま　ま　の　春　麦　よ　い　様　咲　わ　し　松

春　よ　密　陵　詞　ハ　犬　乃　用　心

塚　し　八　月　ら　き　山　ら　月

清　武　ち　び　ま　ち　ま　ら　清

川　祝　吹　宣　文　塔　祝　祝

祝　祝　石　端　雄　宣　瓢　吹　祝　文　塔　同

春りの歌抑八百屋たちの　雨

日新も既に心の梅さくら　吹

春秋新さくらの数を競舟行　宣

新蕊さくと杉堂柳も　川

高月山
雄神川連中

搖香

線香の香や仏の香わかる　常雨

笑雲に孤山月と雲　雄宣

さくら月月ふくね新はな　弦舟

秋えん月よ注ぐ宮の出　亟石

えんえんて吟ずる月秋の色　一子

力和はさくらひたちも男山　暮水

出かして吹うら仏乃出　如水

暮よ寒く雲よハ新し寒月雨　懐玉

彼出の為ちとう名月の雨　梅雨

かの花よ新つまち一葉船　光虹

かもしかして出さんく中此夕了　紅山

形見とて涙よりぬれ牡丹の花　芦川

朽ぬ名よ咲き玉ひ世々の春　李涯

世々経て形ぞ残るうぐひす　嵩雨

夢を頃り玉ふ春日の　白風

秋も世代を経く秋の入日哉　春流

雪も今宵堂ヤ世を送る　瓢吹

茶ちり涙かわるる口ぶり　玄谷跡　雪帽

ちり塚見ても思ひ浮る　其蒼

世を去も世を隔し四方幕　桃序

かりそめの夏の日ハ短小　石端

編書に見ぬ世の数　桃水庵　田龍

廟系

日こそ消し秋小原の暮系　千丈

魂祭拝さち世ぬ世ぬ　田龍

追悼

所能ハ扇にも持て麦畑　　江都　馬光

、
寂しさくらく慈より
玄谷子のもとへ

地にこゝろ移す秀ハ合歓や萩の風　　三斛庵　秋瓜

蜻蛉の月ゝにも涼し草の露　　門然

秋色ハ墓所にめぐる落葉の雨　　米庵

世の夢を結むすび路の萩哉　　左右

むらさきの残る桜や梅の紅葉　　冬渉

さらば今年を悔むな四十雀　　布杖

夕立や谷の音へ猿の草隠る　　蓮翔

、
かゝる世や筆ひらく世の墓参り　　秋雪橋連中　兎園

見る人ぞ甲斐もなし涼しや鬼燈　　瑞葩

花も実も蝉の声して秋の坂根　　午橋

色紅にも実の入る秋の夜哉　　瑞斧

石にうつる世の中の文字　　淇水

手向けし花も秋も草の露　　女　兎岑

[illegible]

故条

[illegible]二百里の風俗り

亮秋

[illegible]り秋[illegible]を[illegible]の日[illegible]

亮陵

[illegible]

寺月

[illegible]

柳几

懐旧

[illegible]

京師

羅人

追善

[illegible]塚の苔清水

備中

翁雨

[illegible]石も苔の門

魚橋

[illegible]の入日[illegible]寺の記念る

亀印

[illegible]

京師

乙之

追善

[illegible]

備前園山

茶炉舎

策扶

旅行川宮秋は止めて玄谷生や
ミち月山の風月と共に無漏の境よ
へかひねと読くへし又の夜のむし
松下に庵は篤うしも霜降ぬ
不堪涙のて朝ちの便ほりけれ
あれ苔の衣は志深うて

豊後球縣 馬貞

声きれ世の中ゆ法の一聲雲　　馬貞

哀て展ゆる月さへきれ鳥　　古桂

名そ千里境に洞の奥くあり　　鯉水

柚香の山路に龍や虎乃聲　　、直玉(?) 巡古

秋の色結ばれ眉の洞川　　花牛

家々境は又も翔ばし花飛ぶ　　百布

月州の暁暮る水きる　　古岩

月は天の庭に渓を筆の姿　　知之

静なや夕日に濡るる紫山　　馬井

あくの紫に露[illegible]ほどにしみ夏　　花木

秋はすまゐの水面や眩きぬ　　遊雛

経る秋も文字の巻や州の苔　　山谷

風の吉野に向ふ路の秋を見る　卜水
陽うれし清の京を見るやうの秋　鶴井
菊うるはしき奇稲石泉　白兎
唐崎や耳の底や九月雨　利友
業平や山をもの自ら風の乃　高田孤楽
時雨れ初めて一葉下　花遊
秋ゆく藤棚や帰や秋の風　残柳
時雨や若くして飽くを形見　一正

秋雨や余波も穿や耳の垢　竹波
眠り子の山乃雨迄苦を　蛙沼
在や文を抑の菊の風の秋　跡道
寄る波の寄るも寄南るも稲乃雨　吾友
時和る家や時雨家白し　里雪
柚乃て徐に見渡や秋乃秋　古清
力叫秋の秋や一ひら　以長
萩の風音や染ん耳を　器水

消て帰らむ玉かぎる、芝崎　白丈

玉ゆゑ朝ハ宿もと叫乃声　知十

稲妻と人の後ハ消ぬ雨　友月

月の名山なるに筆の跡　砂令

杖川や業なき水　舎乗

一九の名や柳ん庵石案　梧井

字明り志ゑや波乃ゑ庵　翠帚

あゝの羅字ゑや夏の海川　曾由

上折の玉ゆらゝや萩芒風　三径

ゑつぶ名のこゑ案ハ芝の菊　和水

月ハ冨名案山あゝ面の雨　可情

森八ゑや玉の網ゑ秋ゑゝ　司山

云叫ゑ山ゆゑ秋の月　南瓜

嫌秋古山の雲や月　僧　懶石

鞠やゑの枝ハ枯ゑる葉ゑゝ　全　雲渺

初くゑのさゝゑ花ゑ　長崎　路圭

[illegible]の田舟川より流れ[illegible]
稲穂の華に囲まれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

流れ有　杏雨
備後府中　鬼明
流枝
文隣
梅貫
貫千
鞆津　楓亀
泥牛

石[illegible]
三年より[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　迴向
[illegible]　蝸国
[illegible]　路香
[illegible]　賢涯
[illegible]　呉竹
[illegible]　以一
[illegible]　不加
[illegible]　遊之

世のうらや実ハ飛るゝ蓮の露　一兎

師なる玄谷子ハ風雅のまことにしも深くしたしみておのれら衆を對影し春秋をへて久しくかなしむ一周忌とて名をとゝめてとふらひし侍る

其声もなくて啼しや萩の風　、福山　素浅

事と身とその法及ぶし　素卯

和尚は半もなし袖の露　、神辺　古黒

借ハ露まおりて六か月　、福山　野橋

那波氏玄谷翁ハひとしく風雅の友偕ありしほど病おかくして此のなか一周忌にあたりて一句を綴りて向侍るし

備中宮内梅陵舎

色艶や一周まやゝ六月の秋　高吉

おもひ出のむすもぬけし師の露　重末

世に残る言葉ハ秋の人の泉　仙牛

追福

露ハ仮ありし菜の雨　、岡田　雛牛

約束より長川秋の行くゝ郎　、矢掛　玄隆
秋もまぐさ高くなるゝの音人　本坂　浴谷
庶子ゝれ高し方よりもしタ小
紅葉玉秋の日つゝの紅さゝ　梅冨
竹屋ゝて秋ヶ秋ゝ去遥　矢掛　巧美
葉ゝ吹月秋車の寒四　紫泊
徒一人秋ゝれ蟬ゝ秋ゝ　、松山　訊紫
ゝゝ秋ひヶ秋より四ゝ行ゝ　春波
遅移

編書より外ゝ去ゝ法の巻ゝ　、玉嶋　松操
朱ゝ奪ゝゝの夏ヶ家ゝ　、口林　丈刈
時雨ゝ有ゝ春より放秋川　陽蛍
ゝゝ人新の海ゝ　、鴨方　案山子
四ヶ秋風の尾ゝヶ夫就合　可璟
人待ゝ紅八紅ゝ秋四面　枚介
秋八紅木の山ゝ紅て紅ゝ　竹楽
草行の吹ゝゝ人　松巷ゝ　松里

[illegible]人ハ秋深し美の月　素江

[illegible]　可珩

[illegible]月の[illegible]　浅口新田　巳千

[illegible]楽し[illegible]　桃里

[illegible]川　松秀

[illegible]の色　文里

[illegible]ハ美よ[illegible]の[illegible]　東順

[illegible]　可作

美と吟[illegible]味の[illegible]

萩ハ[illegible]　笠岡　南江

[illegible]　石梁

楽場[illegible]月の[illegible]　晋水

[illegible]　江翠

蔓性へ[illegible]秋の[illegible]　芦舟

一里の[illegible]ハ[illegible]　素六

[illegible]　松壽

[illegible]　野牛
[illegible]　原雀
[illegible]　鷺汀
[illegible]　松廊
[illegible]　湖棹

追善

[illegible]　京都　桃畔
[illegible]　備中江原　永夫

[illegible]　井原　楽山
[illegible]　露秀

り抑の杖沈湯より伝めりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　倉鋪　凡轉宇　泰蓑

追悼

十方[illegible]　勢良　麦浪

[illegible]　如之
[illegible]　洞也
[illegible]　松比
[illegible]　温故
[illegible]　素道
[illegible]　畔古
[illegible]　九耳
[illegible]　蓬里

[illegible]　淺鯉
[illegible]　云歩
[illegible]　帆士
[illegible]　義上

追悼

[illegible]

月山や秋の雲　知鐵
入るとなく鹿ひゝの鳴よ秋　丈支
実るへき秋とはなれ百日和　素文
吹あるる月よ三尺世秋月は　杜什
秋の秋人あるの月を見わ人を　只詠
かなかの秋あるかの秋　洗鷺
かも秋の吹あるる廉の地の南　史鳥
なるとなく秋のなるやまの月　八橋

文色とゝ色ゝる　細しゝ乃ゝ　加明

芦葉舎のあるゝ言葉と中ゝ人仕事行て
ゝゝ秋ゝる葉月月のゝるゝと名ゝ
丈人ゝゝゝゝゝ秋ゝ中代ゝ行ゝ代
伊系のんゝゝの切ゝる秋ゝくゝ人の秋
貞実もゝゝゝゝ行ゝゝいゝ秋ゝゝ
ゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ秋ゝゝゝゝゝ行ゝ

白羽斧

ゝゝ廣ゝ葉末の葉秋葉行ゝ　龙令

追悼

葉ゝ秋ゝゝゝ秋ゝ夢ゝゝゝのゝゝ　豫長松山連　蟬蛻

面へ名残惜しき秋の蓮の葉　更互

仏前に供せしの棚を吟ずるの　埜乙

墨ずみ染む年の暮の月俤し　化來

古筒の花を吟ずや秋　志山

手向よ八月を新州の秋　文翁

月ずみ曾て新やを向れば　水〻

古仏の貴り鳥帽　止々斎

歎逝　洛下　漣窩題

逝者如斯奈別離

南鄰北里哭新屍

白楊特為悲風起

揺落不秋亦愛衰

哭難波政貞　備中及江原　武知盛芳

滿目蕭然搖落秋　嗟君此別到蓬丘
自今投轄難相會　日夕倒載為昔遊
携手嘗攀高月嶺　含悲独對雄神流
看來人世一場夢　必竟功名何足求

高月山雄神川者難波氏宅辺之名所故五六及于此

延享五戊辰
仲秋出板
京寺町二条上ル所井筒屋
庄兵衛梓